

1. 評価結果概要表

作成日 22 年 3 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	1890100199
法人名	社会福祉法人 鷹山会
事業所名	グループホーム幸の家
所在地	福井市免鳥町22-70 (電話) 0776-87-2161

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年12月15日	評価確定日	平成22年3月16日

【情報提供票より】 (21 年 12 月 5 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7 人、非常勤 3 人、常勤換算 7.0 人	

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000(30日の場合)		円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有 ()		円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ()		円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食			円	昼食	円
	夕食			円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100		円	

(4)利用者の概要

利用者数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	5	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86.4 歳	最低 82 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	富澤クリニック 嶋田病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年10月に設立された当ホームは、海と山に囲まれた海岸段丘の中にあり、自然豊かな環境の中で四季の移り変わりが入居者の五感を刺激してくれる。目の前には国道305号線があるが、騒音や排気ガスなどの不快感はない。ホームは木造平屋建てで木の香がほのかに漂う。天井も高く自然採光を取り入れており、居室やリビングなどの共有空間もゆったりとしており、居心地よく過ごせるようになっている。
また、ホーム横に併設している介護老人福祉施設・通所介護事業所とは渡り廊下で繋がっており、入居者は通所介護事業所にいる友人を訪ねたり、職員も日常的に行き来しており緊急時の応援体制ができています。
近隣の幼稚園児や小・中学生とも積極的に交流するなど地域に根ざす活動にも取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回は初めての外部評価の受審である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回は初めての外部評価の受審ということもあり、管理者が外部評価・自己評価の意義や目的について全職員に説明し、自己評価に取り組んでいる。各自が行った結果を全職員で意見交換することで、日頃のケアの振り返りや問題点の把握ができたと感じている。 今回の外部評価や自己評価の結果を活用して、さらなるサービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は2か月に1回平日に開催しており、家族代表・自治会長・地域包括支援センター職員・民生委員・介護相談員に参加してもらっている。 会議では事業所から運営状況や活動内容について報告した後、各委員から質問や意見・提案等をもってあり、有意義な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 家族からの意見や要望は、面談時や電話で連絡する際に直接聴いているほか、家族会を年1回開催したり、意見箱を設置するなどできる限り意見等を出しやすい環境を整備している。 また、地域の代表者も加わった第三者委員会を設置し、家族の意見や苦情を客観的に判断してもらえるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは町内会に加入し、入居者と職員が祭りや地域のボランティア団体の行事などに出かけたり、地域の文化祭に入居者の作品を展示してもらっている。 また、近隣の幼稚園児や小・中学生がホームを訪問したり、入居者と職員が学校行事に参加するなど、子供たちとの交流も積極的に行い、地域に根ざす活動にも取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

 は、重点項目。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営			
		1 理念の共有			
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとして、「今日は今日のためにある」という独自の理念を作成し、玄関に大きく掲げてある。		地域のなかでその人らしく生活することやホームが大切にしている思いを入居者・家族・ホームを来訪される方にも理解しやすい言葉で表現した理念に見直すことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎朝のミーティング時や申し送り時に唱和し、職員への浸透を図っている。		
		2 地域との支えあい			
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会に加入し、入居者と職員が祭りや地域のボランティア団体の行事などに出かけたり、地域の文化祭に入居者の作品を展示してもらっている。 また、近隣の幼稚園児や小・中学生がホームを訪問したり、入居者と職員が学校行事に参加するなど、子供たちとの交流も積極的に行い、地域に根ざす活動にも取り組んでいる。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価の受審ということもあり、管理者が外部評価・自己評価の意義や目的について全職員に説明し、自己評価に取り組んでいる。各自が行った結果を全職員で意見交換することで、日頃のケアの振り返りや問題点を把握できたと感じている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回平日に開催しており、家族代表・自治会長・地域包括支援センター職員・民生委員・介護相談員に参加してもらっている。会議では事業所から運営状況や活動内容について報告した後、各委員から質問や意見・提案等をもってあり、有意義な会議となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として、市の担当者への積極的な働きかけは行っていない。		市の担当者を通じてホームの現状や情報を積極的に行政に伝え、気軽に相談できる関係づくりを期待したい。
		4 理念を実践するための体制			
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、面会時や電話等で日ごろの様子や健康状態を報告している。また、広報誌を定期的に送付したり、ホームへ来られた時に日頃のスナップ写真等を見てもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、面談時や電話で連絡する際に直接聴いているほか、家族会を年1回開催したり、意見箱を設置するなどできる限り意見等を出しやすい環境を整備している。 また、地域の代表者も加わった第三者委員会を設置し、家族の意見や苦情を客観的に判断してもらえるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるように配慮している。 以前に出産・病気などで退職者があったが、入居者と馴染みの関係を築くまでの間、新規採用職員との2人体制をとり、不安を少なくするように努めた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に外部研修の情報を伝え、希望する研修に積極的に参加している。研修結果は職員会議で報告し、共有している。 職員の経験など段階に応じた研修計画はない。		これまでの経験などに応じてさらにスキルアップできるよう、職員ごとの研修計画の作成を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は同業者との交流は行われていない。		管理者は、同業者との職員同士の交換実習を行い、サービスの質の向上につなげたいと考えており、実現に向けた取り組みを期待したい。
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があった時には、本人・家族に説明をし、見学や宿泊体験をして、納得してもらった上で契約している。 入居後は、他の入居者と馴染めるような雰囲気づくりや接しやすい職員を担当するように配慮している。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事・調理・パッチワーク・絵画等、本人が得意なことや興味のあることに職員も一緒に取り組み、アドバイスや生活の知恵を学びながら、支えあう関係を築いている。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の本人・家族からの聞き取りだけでなく、職員が日々の暮らしの中で本人の生活のリズム・言動・行動などからも思いを把握するように努めている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からの意見を踏まえ、看護師・介護支援専門員などによるサービス担当者会議で話し合い、意見や提案も活かして介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、3か月ごとに介護計画を見直しているが、個別の介護支援経過記録はない。		定期的なモニタリングを行う際には、入居者一人ひとりについて日頃の介護支援経過記録を踏まえて実施することが重要であり、今後の取り組みに期待したい。
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している介護老人福祉施設や通所介護事業所とも連携し、各種行事の開催や交流、緊急時等の職員の応援体制等も確立されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医での受診を支援しており、受診時は家族に同行してもらっている。かかりつけ医や家族と連携し、病状などの情報を共有している。また、看護職員が日常の健康管理を行い、状況に応じて協力医による医療支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームには看取り指針があり、入居時に家族に意思を確認しており、希望した入居者が重度化した際は、かかりつけ医や協力医等と連携し、看取り介護を実践している。開設時から2名の看取りを行った経験があり、職員をはじめ関係者の間でも方針が共有できている。		
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中での言葉かけやトイレなどの声かけにも十分に配慮したケアを心掛けている。また、個人情報保護については内部研修を実施し周知を図り、個人情報は適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人のペースを尊重し無理強いはしていない。当日、リビングではパッチワークをする人、雑談する人など、各自思い思いに過ごしている様子がうかがえた。また、本人の希望に応じて新聞や雑誌も提供している。		
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付けなど、入居者ができることを手伝ってもらっている。入居者と職員が同じテーブルを囲み、会話をしながら食事を楽しんでいる。家族にも参加してもらって食事会をする機会も設けている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭的な個浴となっており、入浴の順番などはなるべく希望に沿えるように配慮している。夏期は週3回、冬季は週2回の午前を入浴時間と決めており、シャワーは随時利用することができる。本人が希望する時間や回数にあわせた支援は行っていない。		入浴を拒む利用者や本人の入浴習慣を考慮し、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援を期待したい。
		(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことを把握し、洗濯物の整理など日々の暮らしの中で役割を担えるように支援している。パッチワークの得意な方には椅子のカバーを製作してもらったり、得意分野を発揮できるような場を提供している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設の介護老人福祉施設の車を利用し、絵画が趣味の入居者と本人のアトリエへ同行したり、買い物などに出かけたりしているが、本人の希望に沿った近隣への散歩や外出は少ない。		ホーム周辺は豊かな自然に囲まれており、日常的に近隣への散歩などの外出支援についても期待したい。
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強い入居者がおり、以前に職員が気づかない時に外出したことがあり、現在は玄関・居室の窓を施錠している。		入居者の気持ちに沿った職員の見守りや地域住民に協力をお願いするなど、全職員で方策を検討し、日中鍵をかけないケアの実現を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に参加してもらい、昼と夜を想定した避難訓練を実施している。 今後は、消防署の指導のもとで、地域防災協定を締結し地域住民の協力体制を構築したいと考えている。 ホーム内には防災設備が完備されている。		運営推進会議などの場でも災害時の地域住民の協力をお願いし、地域防災協定が早期に締結できるよう期待したい。
		(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は、入居者の好みを取り入れながら、職員が立てており、定期的に併設施設の栄養士に栄養バランスやカロリーをチェックしてもらっている。水分も定期的に補給できるように配慮している。		
		2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋のホームはどこを見ても掃除が行き届いており、清潔で気持ちがいい。家庭的で居心地のよい空間づくりを心がけており、共用スペースの食堂や廊下に入居者が製作した作品を飾ったり、ソファークリヤに手作りのカバーを掛けしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ・家族の写真・絵画・自分の好みの作品等、馴染みの物が自由に持ち込まれ個性あふれる部屋となっている。空調も部屋ごとに温度調節が自由にできるようになっている。		

自己評価票

 は、外部評価との共通項目。

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営			
	1 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	幸の家利用者の「今日は今日のためにある」の理念のもとに、独自の理念を作成し、玄関の見やすいところに掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングや日々の日常業務を通して、理念の実現にむけ、唱和し、努力・取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方には、ホームの理念がわかるよう、ホーム内に掲示しお伝えしているところである。		今後、地域に向けて広報誌等の配布や自治会等への活動を通し、理念が伝わるよう努力して行きたい。
	2 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	野菜をいただいたり、野菜の世話の仕方などを教えてもらってはいるが、気軽に立ち寄っていただけるまでには至らない。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉まつりや、学校行事への慰問参加、地区ボランティア団体主催行事、町内の祭礼行事などに参加している。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域ボランティアや実習生の受入を積極的に行っている。		
	3 理念を实践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的について全スタッフに伝達し、全ての職員が自己評価に取り組んでいる。結果についても、今後、スタッフ会議で報告し、改善検討を行う予定である。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて事業所からの報告を行うとともに、参加者からの質問や要望を受け、サービス向上につなげているところである。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との交流はあまりないところである。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について、管理者からの権利擁護の意義などの周知をミーティング時に説明している。また、その有効的活用ができないか常に検討を行なっているところである。		今後園内・園外研修等の研修に積極的に参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ミーティングなどで伝達を行なっている。また、日常生活をとおし、虐待行為にあたるような対応がおこなわれていないか常に気をつけている。		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に十分な説明を行い、同意をもらっている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その時々において、利用者の不満や意見など、全スタッフがミーティング等で情報を共有するよう心がけし、その場で業務改善ができるような内容であればすぐに反映するようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会、電話にて利用者さまの様子や、健康状態の報告を行なっている。広報誌やアルバムを見ていただくことで、利用者のホームでの生活の様子や表情を知ってもらっている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との面談や、電話での連絡の際に要望を伺ったり、第三者委員を儲け苦情や不満を受け付けているところである。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やスタッフ会議、意見箱を設置するなど適時行っており、意見を聞く機会を設け反映させているところである。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて柔軟な勤務の調整を行なっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にスタッフを固定し、なるべく最小限にとどめており、異動や退職時にはご利用者様への配慮を心がけている。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの機会には積極的に参加していただいているところである。研修の報告としては、月一回のスタッフ会議の際に復命することとなっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に行なっていない。		グループホーム協議会等に参加し、意見交換の場に積極的に参加することで交流を図っていききたいと考える。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体で職員からのストレスや悩みを聞き取る方法として「目安箱」を設置し、第三者的な法人の役員が聞く体制をとっている。普段からも事業所一括で相談担当職員(特養次長)が職員のストレスや悩みを聞き取るよう仕組みを作っており活用している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	特に行なっていない。		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅ケアマネより情報収集している。可能であればホームに来所し本人の要望等を聞き入れているところである。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人や家族の思い、状況などを確認したうえで、今、何が必要かを家族及び本人と一緒に見出している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援が適切・必要であるを見極めたり、その後他のサービスを併用したり、ケース毎に検討・判断しているところである。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の利用者となじめる様に雑談へそれとなく誘い参加させる工夫や雰囲気づくりや、職員がその利用者や接しやすい方を担当となるよう配慮したり、家庭にある馴染みのものや家具を持ってきていただき工夫している。		
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑や調理、選択、掃除等をご利用者様と共にすることで、色々な助言を頂いたり外出や会話することで日常生活の知恵を学ばせていただいている。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを面会時や電話などでお伝えすることで共通認識につなげ、本人を支えてくための協力関係作りに努めている。またご家族の思いも十分に汲み取りながら行なっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	可能なかぎり来訪や外出・外泊でご家族と一緒に過ごしていただいている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者それぞれの馴染みの場所(自宅や近隣の場所(お寺さん等))が疎遠にならないよう、希望に併せて外出の支援や、家族との連絡調整によって支援している。また併設の通所事業所に友人を訪ねたりできる機会作りを行なっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がレクリエーションに参加していただき、交流を深めていただいているところである。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、ご家族の相談に乗ったり、できる限りの対応を行なっている。また、併設施設への入所となったケースではその本人や家族さま含め、面会、行事等でお話する様心がけている。		
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後の生活の中での症状や会話などから本人の希望や意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネージャー等、関連職種からの聞き取りや、日々の介護記録、各情報提供書等を活用し把握に努めている。		センター方式に移行していきたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の生活のペースやリズム、体調を把握するように心がけている。また、朝のミーティングの際、リスク等話し合いを行なっている。		
	2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議において話し合いを実施、意見や提案を反映したプラン作りに心がけている。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングの実施にて効果把握し、見直しを行なっているところである。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人サービス表や個別記録を基にモニタリング、ケアプランの見通し、評価を実施している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状態に応じ、通院などの支援を柔軟に対応している。併設施設への各種行事参加、交流を行い調整している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大正琴や踊り、太鼓等の慰問の団体やボランティア、幼小中学校の慰問や公民館行事、幼・小学校の行事に参加させていただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設デイサービス等、馴染みの関係が途絶えないよう、随時交流を行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の際、必要に応じて地域包括支援センター職員との意見交換を実施しているところである。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望を確認した後、それぞれに受診を行なっている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	場合に応じて家族に専門医療機関への受診を勧める等支援を行なっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所で看護職員を配置し、日常の健康管理を行なっているところである。また嘱託医や併設施設との看護職員との情報交換を実施し医療支援を行なっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ケアマネージャーと関係医療機関の窓口（地域連携室等）との情報交換を行い退院支援を行なっているところである。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	入居の際、終末期のケアについてご家族の意思を確認している。また、重度化した場合等について、必要に応じてかかりつけ医、嘱託医との連携を行い看取り介護を実施している。また看取り介護指針を設置し、方針の共有を図っている。		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度化した利用者に対しては、対応できる病院や施設にスムーズに移行できるよう支援している。それまでの間、ホームで、出来る限りの援助を行なっている。		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	移り先の関係者には個別情報や支援の内容や注意点などについて情報提供を行い、ダメージが最小限に抑えられるよう気を配っている。		
	<div> <div>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</div> <div>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</div> </div>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者一人ひとりのプライバシーやプライドが守られるよう、日々のケアの中で周囲に判らないようさりげないケアを心がけている。また、プライバシー情報に関する保護の方針・目的を策定、内部研修などで周知を図り実践しているところである。		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	日常生活のいろんな場面で、選択の自由を心がけたケアをおこなっている。利用者との会話では命令口調にならないよう心がけている。		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	1日の日課に沿った基本的な流れはあるが、個人のペースに沿って無理をせず生活していただいているところである。		
	(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人の好みの服を自由に着ていただいている。定期的に理容ボランティアの支援、スタッフでは随時、身だしなみやおしゃれの支援を行なっている。		行事や野外活動の際、お化粧をしていただくよう支援していきたい。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	調理・盛り付け、片付けなどは利用者さんと共に行なっている。スタッフと利用者が同じテーブルを囲み、食事が楽しめるよう雰囲気作りを大切にしている。		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	飲酒・喫煙を望む方はおられない。嗜好品については、外出時や家族面会時に必要範囲内で楽しんでいる。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1日全体を通して、排泄パターンをチェックし適切に介助を行なっているところである。またプライバシーに配慮した対応を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬は週2回、夏は週3回、日中ではあるが一人ひとりに入浴順の希望やタイミングを確認しながら対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握した上で、日中に活動が多くなるよう支援させていただき、夜には落ち着いた環境を提供し、安眠していただけるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日の生活の中で、その方々に役割をもっていただけるよう、促し支援を行なっているところである。また、生活暦などから、得意なことを把握し発揮していただけるようなチャンス作りを行なっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者の方は、安心感のために自分の財布や小額の金銭を持っていたりしている。買い物、ドライブなどに出かけることで支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候などを考慮し、希望に沿って散歩や外出ができるよう支援しているところである。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画の中での季節的な行事の参加、地域の行事など外出レクリエーションを実施している。		家族同行での外出行事を実施していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など本人自ら行い、必要に応じて支援を実施している。希望のある方は、ご家族に電話を掛けていただいている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会簿を設置し、家族間の面会状態も確認できるようにしている。面会時には一緒にお茶を飲みながらくつろいで頂いたり、職員とも気軽に話せるよう配慮している。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束廃止に関する指針』を職員が理解し、研修や勉強会にて意識を高めている状況である。現在において身体拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望や買い物へ行きたがる利用者さまがあられるため、危険性を配慮し施錠している。		時間を決めて開放していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは、利用者と同じ空間で記録などの事務作業を行ないながら、さりげなく全員の居場所と状態を確認している。夜間はこまめに巡視をおこない、起きられたらすぐに対応できるよう居室が見通せる位置にて待機している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決めて管理している。ご利用者が使用する縫い針、はさみ等の注意が必要な物品については必要な個数の確認或使用後の個数の確認・管理を行い、一人ひとり対応させていただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測されるリスクに対し、事故を未然に防ぐための工夫を誤嚥のリスクの高い方については、食べやすくかつしたり、食事内容を工夫している。事故発生時にはヒヤリはっと報告書等を作成し、スタッフ会議で話し合っている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の『事故対応マニュアル』『急変時対応マニュアル』に即して職員に周知しており、そのとおり実践しているところである。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間・昼間を想定した避難訓練を実施しているところである。		地域防災協定を今後策定し、協力が得られるよう計画していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時においてリスクに対する説明を十分に説明させていただいているところである。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル測定以外にも、状態の変化が見られたときは、その都度測定を行い、記録している。異常がある場合は、看護師が協力医との連携にて速やかに指示を仰ぎ、処置をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果について説明ファイルを作成している。全職員がその情報を共有し、いつでも確認ができるようにしている。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、それを基に日々のおやつや水分量の調整を行なっている。野菜、果物、繊維質の多い食材を取り入れ、栄養バランスに気をつけている。併設施設の管理栄養士からアドバイスを適宜受けたり、食膳の体操やおやつ前のフロア内の歩行等も実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯みがきの声掛けを行っており、可能な限り自力で歯磨きをおこなっていただいている。就寝前の義歯洗浄も実施している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日チェック表に記録し、スタッフが情報を共有しているところである。メニューは併設施設の管理栄養士にチェックを行なっていただいている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、スタッフともインフルエンザの予防接種を受けると共に、普段からの予防を行なっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾などは都度漂白し清潔保持に努めている。冷蔵庫の中を毎日点検し鮮度や状態を確認し、古いものは処分している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に観葉植物や手芸作品を置いている。建物周囲に植栽や花、野菜などのプランターを設置し、雰囲気作りをしている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者さまが作成した作品を廊下に貼ったり、季節に合った壁画を廊下に貼ったり、各居室の前の廊下には花を生けて飾ったりしている。台所からはいつも調理の音や匂いがするよう家庭的で居心地のよい空間を作る工夫をしている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、個々の居場所を確保し気のあったご利用者様が一緒に過ごせるよう配慮している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限することなく、馴染みの家具等を持ち込んで使用していただいている。家族の写真も目の見えるところにおいたり、自分の作った作品なども飾っている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は窓の開閉と換気扇を状況に応じて行っている。冷房や暖房等は温度設定を小まめに変えている。		

項目 番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、階段など移動空間に手摺を配置し安全面に考慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家族、本人の了解の元に、居室ごとに「表札」を出して判りやすさを工夫している。また、トイレの場所がわかりやすいよう明示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭木を眺めて楽しんでいただいたり、花や野菜のプランターを置いて生育、収穫の楽しみを味わっていただいている。草むしりや洗濯物干しも行なっていただいている。		天気の良い日には、日向ぼっこができるように支援していきたい。
項目 番号	項 目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るく、笑顔がたえないホームとなるよう、職員一同努力しております。